

2021年
新年号
表紙は見開きです

全厚労ニュース

全 国
厚 生 連 労働組合連合会
〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
http://www.zenkouro.org/

想いが うし年ぎゅ〜つと密な1年に

あけましておめでとうございます。2021年は丑年。縁起が良いとされる年男・年女の皆さんに、新年の抱負をアピールして頂きました。(都合、丑年でない方もいらっしゃいます) 新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈って、組合員が明るく元気に働ける一年となるよう今年も全厚労「団結」してがんばっていきましょう。本年も全厚労ニュースをよろしくお願いします。

広島



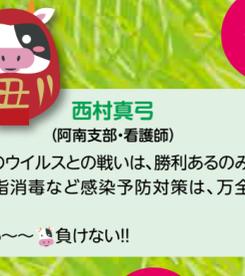
山手規正
(尾道支部・看護師)
新年明けましておめでとうございます。昨年からコロナ禍で大変な状況が続いています。今年も全厚労「団結」してがんばっていきましょう。本年も全厚労ニュースをよろしくお願いします。

山口



松田純一
(長門支部・看護師)
いつもは大人しい牛ですが、今年も猛牛(モーギュウ)になって労働者と患者さんのために闘います!

徳島



西村真弓
(阿南支部・看護師)
このウイルスとの戦いは、勝利あるのみ手指消毒など感染予防対策は、万全に!! もう〜負けられない!!

大分



島津佑太郎 (薬剤師) **久寿米木章子** (看護師) **大島賢治** (診療放射線技師)
新型コロナウイルスとの戦いが続く中、陽性患者さんの受け入れ施設は風評被害で他の医療機関に比べ経営悪化が深刻です。国に赤字補填をしてもらい、この事態を早急に解決していかなければ病院の存続が危ぶまれます。モー〜待てない! 全厚労一丸となって国を動かしましょう!!

高知



鎌倉穂高
(看護師)
看護師として3年目の年。初心を忘れず、さらなるスキルアップを目指していきます。

香川



川原 武
(高宮支部・薬剤師)
5月に第二子が産まれました。仕事、子育てに追われ趣味の筋トレもなかなかできていませんが、家族第一に子育てに専念したいです!

三重



鷺田実咲
(いなべ支部・看護師)
料理が苦手なので、今年こそはもっと練習したいと思っています。栄養バランスに気をつけて、美味しいものが食べられるよう頑張りたいです。

秋田



佐藤明日香 (鹿角支部・臨床検査技師) **田口彩綾** (鹿角支部・臨床検査技師)

北海道



越崎祐輔 (帯広分会・臨床検査技師) **池田裕晃** (旭川分会・臨床工学技士)
北海道は全道各地に事業所があり、コロナ禍の影響で役員が集まって活動することが難しい状況であります。医療従事者として日々奮闘している組合員が、笑って活動できる1年になることを切に願います!!

新潟



大平雅浩
(組合本部・専従)
今年こそReborn!

福島



溝口由記
(白河分会・臨床検査技師)
4月に娘が高3と中3になります。そして私は昨年延期された病院機能評価と輸血機能評価の受審も…。ダブル受験に向けて娘たちのサポートと、ダブル受審に向けた準備を何とか乗り切りたいです!

長野



熊崎憲夫(写真左)
(富士見支部・診療放射線技師)
新しいことにチャレンジする! プライベートの時間は必ず確保する! 仕事を楽しむには、趣味の時間を充実させることが大事。何事にも全力で頑張りたいと思います。(写真は全員丑年です)

富山



橘 孝志
(滑川支部・診療放射線技師)
2021年も3歳になった愛娘と、楽しい時間を共有して2人の絆をモ〜と深めたいと思います。コロナ禍で行動が制限される中、娘とはぎゅ〜と密な状態をキープしていきたいです!!

神奈川

弱小組合ではありますが、労働相談などを実施し情報を集め、職員の労働条件や労働環境などの改善のために、積極的に行動し組合員の組織拡大に向けて頑張ります。2021年も、コロナ禍が続きますが賃金格差をつけるような厚生連の動きを阻止するためにともに闘いましょう。(神奈川県厚生連労働組合一同)

熊谷



阿部恵美
(熊谷総合病院・看護助手)
30代後半になり、仕事でも遊びでも健康が一番大事だと感じるようになりました。内側と外側両面からのキレイを目指して頑張ります。

茨城



根本祐二 (西南支部・理学療法士) **菅井康弘** (西南支部・理学療法士)
「患者さんには辛いハビリであっても、少しでも楽しい(達成感のある)時間となるよう自分自身も楽しんで患者さんと向き合う一年に」と抱負を語ってくれたお二人です。

静岡



辻本英範
(清水支部・薬剤師)
就職して3回目の年男を迎えます。若くてフレッシュだった1回目、仕事、子育てに充実していた2回目、3回目の今年はどうなるのでしょうか? 大変なことも多いですが、モウひと踏ん張りしたいと思います。

1970年

1960年

1950年

- 1978年 第1回婦人集会を開催。
- 1976年 8月 第1回青年交流集会を開催。11月5日全国324病院で「医療改善スト」が行われ、新厚労、長厚労が参加した。77春闘では全国平均12,718円の賃上げ（ベア9、659円、8・76%）となる。
- 1975年 全厚連と初の団体交渉を行う。
- 1965年 全医労で「夜勤月8日、一人夜勤禁止」等の人事院判定、新潟県職労で「夜勤月8日制」協定化、新厚労も夜勤協定を獲得した。
- 1960年 全国各地で「病院スト」や安保闘争が広がる。
- 1957年 全医労・全日赤・厚生連従組(全厚労)、新潟県医労協などが、「日本医療労働組合連絡協議会(のちの医労連)」を結成。
- 1954年 全厚労の前身となる全日本厚生連従組が結成され、第1回大会を秋田で開催。参加県は、北海道、青森、秋田、宮城、新潟、長野。同年第2回大会を長野で行い山形、福島、栃木、富山の4県が加わった。

知ってる？

全厚労ヒストリー



▲1975年全厚連と初の団体交渉

大会は秋田からスタート！歴史を写真で追っていくよ



1975年12月1日 No.17

全厚労ニュース

新潟・長野が決起

医療改善スト

病院で医療相談

八万枚のヒラ配布

医療改善ストは患者・地域住民にも支持されたよ

ストライキ 決行中



▲女性集会の交流会では各県出し物、福島の寸劇はお見事!!

【齋藤文子女性委員長より】

女性が声をあげ活動してきた歴史があり今の権利が確立されています。生理休暇取得促進を目的として母性保護月間の取り組みを継続していますが、自分が権利を取ることで周りに迷惑がかかるのではなく、周りの人も取りやすくなるかと捉えてほしいです。権利を行使しないと権利自体が無くなってしまふ可能性があるため、母性保護の取り組みは重要です。時代が変わっても日本はまだまだジェンダーギャップや性差別があるので、今後も女性部として声をあげ行動していきます。



▲第1回青年交流会のチラシに時代を感じます



当時の青年集会は高原でのキャンプだったんだ

新春平和特集



感染症の拡大と戦争の歴史・軍隊

依然として続く新型コロナウイルスのパンデミック。これまでも多くのウイルスや病原菌による感染症は現れては消えを繰り返してきました。今回の新型コロナウイルスは、普通の風邪症状を起こしてきた型やMERS、MERSのように重症化しやすいウイルスとも違っており、感染者が軽症から重症まで幅広い症状を示し、中長期に続く後遺症をもたらすなど、全容解明はまだです。

将来的にはワクチンや治療法の開発、ウイルス自体の進化によって、沈静化していくと考えられますが、今回のような世界的なウイルス拡散は、世界的なグローバル社会では、必ずまた起こっていくことは必然です。世界が協力して感染症対策を進めていくことがより大切になっています。その点で、今号では少し視点を変えて、戦争・軍隊と感染症が密接に関係した歴史を振り返って平和の大切さを考えてみます。

14世紀 ペスト

ヨーロッパを始め世界中で流行、全人口の3分の1の人が亡くなったと推計

中世ヨーロッパを中心に猛威をふるったペストは、侵略に伴う大規模な軍移動が感染爆発に拍車をかけました。1回目の流行は11世紀、ローマ教皇ウルバヌス2世が提唱した第1回十字軍(1096年)がエルサレム征服後、ヨーロッパへ戻る帰還船にクマズミが持ち込まれたことによります。第2回(1147年)、第3回(1191年)でも同様です。「黒死病」として伝わる1347～52年のペスト流行は、モンゴル軍による西方への進軍が引き金になったとされています。モンゴル軍がクリミア半島の港湾都市・カフア(現フェオドシヤ)を攻撃し、数週間の膠着状態の中でペスト感染が拡大。軍は撤退しますが、その際にペストの遺体をカフアの城壁の中に投石機とともに投げ込みました。ペストは城内に拡大、瞬く間にヨーロッパ中へと広がりました。人類初の細菌兵器の使用と言えます。

18世紀 天然痘

米国やインドを始め世界で流行

産業革命とともに結核が猛威

プロイセンとオーストリアの対立などで起きた七年戦争での英・仏の対立が北米大陸の植民地まで飛び火し、1755～63年にかけてフレンチ・アンド・インディアン戦争が起きました。仏は毛皮の交易路拡大のため、インディアンと同盟を組み、英側と闘っていましたが、その和平交渉の席において、英軍将校がインディアンへの親切心を装って、「贈り物」として天然痘患者が使用していた毛布を故意に渡しました。それにより免疫を持っていなかったインディアンの間で天然痘が瞬く間に広がり、後にインディアンが英国に対して降伏する要因になりました。ウイルス兵器が使われた戦乱となったのです。

19世紀

1918 第一次世界大戦中に新型インフルエンザが世界的に流行

1918～20年に世界的に大流行した「スペイン風邪」は、世界で約5000万人の犠牲者を出したと推計されています。日本でも国民の約4割以上が感染し、約40万人が亡くなったとされています。「スペイン」の名称が付けられていますが、最初の大规模拡大は米本土の基地内でした。第一次世界大戦には当初参戦していなかった米国は、1917年に独軍の無制限潜水艦作戦の攻撃を受けて宣戦布告します。直後の1918年3月に米カンザス州陸軍基地から出征する兵士の間で、新型インフルの発症事例が報告され、3月だけでも基地内で233人が感染、48人が死亡しました。にも関わらず軍が展開され、ウイルスはヨーロッパへの兵士移動に伴い、パリ・イタリアへも拡大、英軍、独軍でも蔓延し、軍隊から一般市民にも広がりました。またロシア、アフリカ、東南アジア、中国にも拡大していきました。



米カンザス州の軍施設(1918年)

20世紀

1920 国際連盟創設

「スペイン風邪」の名称は、中立を維持していたスペインで感染拡大し、国王や首相などが相次いで感染したこと、国内の新聞報道が連日インフルエンザの話題で埋め尽くされたことによります。米、仏、独などの参戦国は、軍隊内の感染実態を知らせず、「兵士の士気を損なわない」ために情報統制が敷かれ、中立国であったスペインの情報が世界に流れたのです。「スペイン風邪」では1600万人と言われる戦死者数を上回る犠牲者を出しました。

1941～ マラリア

第二次世界大戦中のマラリア流行

1948 世界保健機関(WHO)創設

太平洋戦争末期の1945年、沖縄の八重山諸島では、人口約32万人のうち、半数以上がマラリアに罹患し、3647人が命を落とすという甚大な被害がもたらされました。45年4月に米軍の八重山・宮古諸島への上陸が間近に迫ると、旧日本軍は、波照間(はてるま)島、鳩間(はとま)島を始めとする八重山住民に当時マラリアの有病地帯だった西表(いりおもて)島や石垣島のジャングル地帯への「疎開」を命じました。この強制移住により住民は避難小屋での共同生活で「密」を強いられ、梅雨に入った頃からマラリアが流行、食糧難による栄養失調も相まって罹患が拡大しました。旧日本軍は八重山諸島のマラリア有病地帯について把握しており、特効薬ギニーネも確保していましたが、それが住民に渡ることはありませんでした。強制移住の目的は作戦遂行と軍の食料確保、住民が米軍捕虜になった時の情報漏洩防止だったと言われていました。

1957 新型インフルエンザ・アジア風邪が流行

1968 新型インフルエンザ・香港風邪が流行

「敵視」やめて協力を

新型コロナウイルスの世界規模での拡大が続く中で、米軍内での感染者増にも歯止めがかかりません。米軍ではアリゾナ、カルフォルニア、フロリダ、テキサス州など基地が集中する地域での感染拡大が顕著で、沖縄をはじめとする在日米軍や韓国、イラク、アフガニスタンなどの海外基地でも多数の感染者が出ています。3月には原子力空母「セオドア・ルーズベルト」内で乗組員1000人以上の感染爆発が発生しましたが、米国防総省は当初、安全保障上の理由により基地内の感染者数を非公表方針にしていました。全世界の米兵は総計150万人近くで、米軍の感染者数も、日々増加しています。沖縄の米軍関係者では11月30日、過去最大の1日72人の感染が確認され、その全てが海外からの流入者であることが明らかにされています。現在で海兵隊では半年おきに部隊再編により、一部が入れ替わる異動があり、米本国と各地の往来も頻繁に行われます。軍隊特有の「3密」に加えて、世界規模での移動が感染症拡大に影響する点は今も昔も変わりません。米軍の世界規模での展開は、戦争の「火種」になるだけでなく、感染拡大のリスクにもなり、外国軍事基地は必要ありません。特定の国々を敵視する軍事同盟はなく、感染症対策や気候変動危機、核兵器廃絶などの地球的課題で協力しあう枠組みこそが求められています。



人口密集地にある普天間基地

2003 中国南部でSARSが発生

2009 新型インフルエンザが短期間で世界に

2012 サウジアラビアでMERSの事例報告

新型コロナ

2014 西アフリカでエボラ出血熱が大流行

2020～ 新型コロナウイルスの感染拡大が世界規模で広がる

※年表資料は、「平和新聞」20年8月15・25日合併号(日本平和委員会発行)より転載許可を頂き編集しました。

2020年

2010年

2000年

1990年

1980年

2020年

WHO(国連・世界保健機関)が3月11日、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック(世界的な大流行)を宣言。

2017年

9月 第65回定期大会での規約改正で、埼玉労、熊総労が正式に加盟継続となる。

2016年

4月 埼玉厚生連の解散方針により、久喜総合病院が「一般社団法人 巨樹の会」に譲渡され「新久喜総合病院」へ。労働組合は埼玉労として存続。

2015年

9月 第63回定期大会 茨城 結成60周年を迎える。

2011年

3月 東日本大震災発生、東電福島第一原発事故で、双葉厚生病院が機能停止へ。組織人員が3万人を突破。

2010年

2月 ドイツ・オーストリアへの医療視察ツアーを開催。

2008年

12月 島根・石西厚生連が突然の「破産宣告」、栃木・塩谷総合病院の移譲先を決定。

2006年

6月 50周年企画でスウェーデン、デンマークへ医療・福祉視察。

2000(平成12)

7月 青年企画「K's station 星降る高原に集う」を開催。

1992年

看護委員会で、「夜勤協定化マニュアル」をまとめる。

1989年

7月 日本医労連が「看護婦闘争」を宣言し、ナースウエーブが始まる。同年11月にはナショナルセンター「全国労働組合総連合(全労連)」が結成された。

1987年

9月 第1回幹部・看護師集会を新潟で開催。日本医労協が「連合体」へ移行し、日本医労連となった。

1986年

9月 第34回定期大会を高知で開催し協議体から「連合体化」を決定。

1984年

10月 アメリカ医療視察

1983年

10月 全厚労第1回労働学校を開催。

1981年

4月 全厚労初の統一ストライキを行い、13県76病院1万6千人が行動。



ナースウエーブ詳細



16秋闘茨厚労半日ストでの本所前行動



視察ツアーでは海外の医療施設を見学したよ

【松尾晃書記長より】

私は2008年8月から全厚労専従になりましたが、9月にリーマンショック、非正規切りが多発し、日比谷公園には「派遣村」、労働者にとって受難の時期でした。石西厚生連の破産宣告で、厚生連病院の相次ぐ統廃合攻撃との闘いが本格化。いまは「いのちと健康」への「新自由主義的政策」との闘いが重要だと思っています。



1992年「9K」流行語大賞授賞式の様子

ナースウエーブでは、様々なグッズも使って地域にアピール!



初のストに燃える香厚労



全厚労統一ストでの福厚労の様子



経営側と組合側に分かれて模擬団交!!



19年労働学校での模擬団交、団交の難しさを学ぶ



2018年K's station in 秋田

【堀野翔太青年委員長より】

就職して間もない青年層がK's stationへ参加することで、全国に仲間がいることや労働組合の大切さを知るきっかけ、「仲間づくり」の場となります。働き方や労働条件についてわかりやすい企画や、盛り上がる楽しい楽しい交流企画もありますので、全国の若者達、ご参加お待ちしております!



白衣の天使が銀座をデモした1989年10月6日

【安本真理子医療研運営委員長より】

医療現場は年々厳しさを増し、現状維持さえも大変な状況です。その原因はどこにあるのか。乗り越えるには何が必要か。全国の運動から学び、仲間と交流することで各々が自分の仕事の「社会的意義」を自覚する場となっているのが医療研究集会。運営委員会では労働組合が果たす役割・責任を「組合員の要求実現」と「病院を利用する地域住民や患者さんの期待に応えるための運動」は一つと位置づけ医療研運動に取り組んでいます。これからも地域と病院をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。



2017年の医療研集会は「地域医療を考える住民のつどい」と運動して開催

ナースウエーブには医療従事者の大幅増員・夜勤改善署名も取り組まれているよ



2021年7月 がんば3つ!



いきいき働ける職場をめざして

